

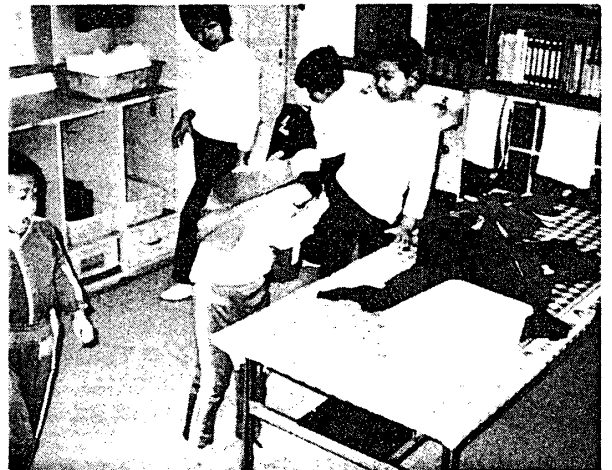
衣服の着脱における自立をめざして

～ K 夫 の 場 合 ～

小学部 中学年

1 はじめに

(1) 中学年の衣服の着脱は、6名それぞれに個人差が大きい。自分で何もできるが時間がかかるとか、その時の気分できたりできなかったりするとか、ボタンとスナップができなとか、したい気持ちはあるが体が思うように動かないなど一応自分でしようとするが不十分な面が多い。



(2) そこで、中学年では「自分でする」態度を土台として友だちと接する中で(例えば、友

だちより遅くならないようにする、友だちのを手伝う、友だちといっしょに服をたたむ、友だちがじょうずにできたら喜ぶなど)今まで1人ではできなかったことを少しずつできるようにしながら着脱をさらに充実し、集団の中で生き生きと生活する意欲を育てるよう取り組んだ。

(3) しかし、始めにも個人差のことを述べたが、K夫はまだ友だちが何かをしてくれないやがって逃げてしまう状態にある。これは、K夫には「自分でする」ことが充分できていないためと考え、自分のことは自分でする心を育てることから取り組んだ。身のまわりのことは母親か担任に全てと言ってよいほどやってもらうK夫に生活の基本的なことを自分でする心を育てることは、やがては親、担任の手を離れて集団の中で生きていく力を養うものになると考えた。

2 児童の実態(K夫)

C.A 9才3ヶ月 [主障害] ガーゴイリズム

- ・筋道立っていないが思いついたことをよくしゃべる。内容は、テレビと食べ物のことが多い。
- ・自分の欲求が受け入れられないとすぐふてたり、泣いたりする。
- ・軽快なリズムを好み、音感もよく身ぶり手ぶりで身体表現を楽しむ。
- ・友だちは着替えをしても知らぬ顔で遊んでいる。担任がそばでいっしょにさせれば、しぶしぶする。(指導以前)

3 指導の経過

(1) K夫に対する指導の実際

① 目 ぁ て

- ・54年度 手伝ってもらってでも自分で着替えようとする。

・55年度 直接手を出さなくてもいやがらずに自分で着替える。

② 構 え

- ・繰り返しの体得
- ・子ども自身の気持ちの受容
- ・無理な強制をしない
- ・賞 賛
- ・動作を通したことばの理解
- ・家庭との協力

③ 観 察 方 法

着脱のようすの記録には、下のような用紙を使用した。

・54年度

項 目	制 服	普 段 着	援 助	介 助	備 考
①ボタンをはずす					
②チャックをはずす					
③上着を脱ぐ					
④ズボン、スカートを脱ぐ					
⑤カッターを脱ぐ					
⑥ボタンをはめる					
⑦チャックをする					
⑧カッターを着る					
⑨ズボン、スカートをはく					
⑩上着を着る					

・55年度

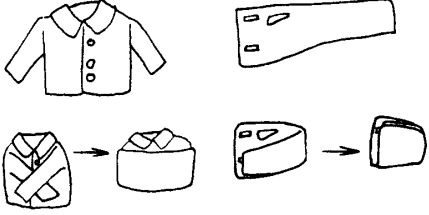
家庭のようす	○△×	学校のようす	○△×
1.朝のあいさつ		1.朝のあいさつ	
2.着 が え		2.着 が え	
3.顔 あ ら い		3.れんらくを出す	
4.歯 み が き		4.せ い と ん	
5.学校のお話		5.そ う じ	
6.お母さんと お手伝い		6.食器くぼり	

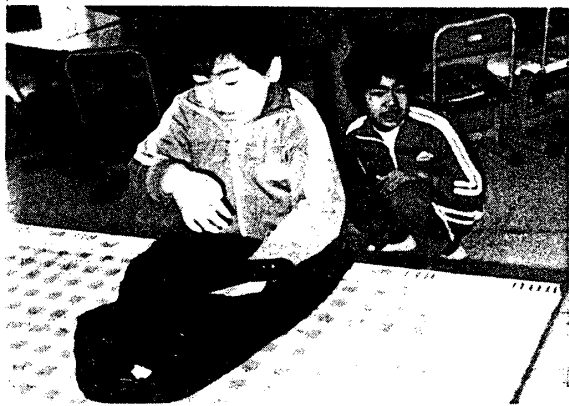
(2) 着脱の経過

(①脱衣、②着衣、③ボタン、④片づけについて)

	指 導 の 重 点	手 だ て	K 夫 の 反 応
54 年 前 期	①・脱ぐことがわかる。 ②・自分の服がわかる。 ・着方、着る順序がわかる。	①・脱ぐ動作をして見せる。 ・そばで必要なだけ脱ぐことを言い体で覚えさせようとする。 ・全部脱ぎたがる時は全部脱がせて満足させてから一枚ずつ取りかかる。 ②・「K君の服だよ」と目の前で見せた後本人に持たせ「服着ようね」と言って始める。 ・ズボンを上げるところは自分にやらせる。 ・上着は片腕通して手渡す方法を試みたが上半身が柔軟でないこともあって、	①・全部脱がなければ納得できず大声で泣くことがしばしばである。 ②・2,3回繰り返すと自分の服がわかる。 ・上着を中に入れたりできないが、上げるだけならできる。

	指導の重点	手 だ て	K 夫 の 反 応
54 年 前 期	③・ボタンのはめはずしがわかる。	残りの片方に通すことができないので渡し方を変えた。えりの近くを裏側から持つように渡し本人が腕を後ろ向きにふり上げ肩からおおいかぶさるようにして手を入れさせる。 ③・いっしょに手をそえてさせる。まん中のボタンをはめるのは自分でさせ、できた時は大いにほめる。	・上着は、うまく肩にかからないことがあり数回やり直すこともあった。 ③・一人ですると無理やり服をひっぱる。 ・1つくらいは時々はめれる。
	④ 片づけについては、脱衣、着衣をまず重点としたいので時期を待つことにする。		
54 年 後 期	①・何を脱ぐのかわかる。 ②・自分で持って着る。 ③・自分でボタンをしようとする。 ④・片づけることがわかる。	①・何を脱げばよいのかそばでその都度言い聞かせながらようすを見守る。 ②・ズボンを手渡し自分で持つてはくように言う。 ・できたら大いにほめ満足感を持たせる。 ・着替えに少し関心を持ち始めたので、家庭との連絡を密にしてK夫の気持ちをたいせつに育てるようさらに協力する。 ③・上の2つはいっしょにしてあとは時間がかかっても自分でさせる。 ④・全ていっしょにするのではなく、1ついっしょにしたら次は自分で持つて行かせることを繰り返す。	①・裸になることもしばしばであるが、言えば「そうか」と納得することが多くなる。 ②・ズボンは50%くらい自分で持つてはける。 ・ほめられると「よかったね」と喜ぶようになる。 ・父親が着替えるそばで「～着て」といつも自分が言われていることを言う。 ③・調子がよければ自分でしようとする。(20%) ④・時々はできるが、言っただけではできずいっしょにする。
55 年 前 期	①・指示を聞いて取りかかろうとする。 ②・自分で着ようとする。	①・だだをこねても無理に強制せず一旦は受け入れてからいっしょに着替えさせる。 ②・そばで服を手渡し「自分でできるよ」と励まし、素直にできたらほめる。	①・1回はだだをこねるが裸にはならなくなる。 ②・ずっとそばにいて少し手伝えばできる。

	指導の重点	手 だ て	K 夫 の 反 応
55 年 前 期	③・自分でボタンをす る。 ④・たたむことがわか る。	③・途中で他のことに気をとられるとやめ てしまうので最後までするようにこと ばをかけたり見守ったりする。 ④・手を持っていっしょにたたませる。 服は、たたみやすく台の上に広げておく。 (上 着) (ズボン) 	③・首もとは手が届きに くいのでできないが 他は一応できる。 ④・いっしょにすれば、 しぶしぶする。
55 年 後 期 (12 月 ま で)	①・自分で脱ぐ。 ②・自分で着る。 ③・自分でボタンをす る。 ④・自分でたたもうと する。	①・集中してできるようにそばにいてこと ばをかけたり、見守ったりする。 ②・ロッカーから自分で出して着るよう促 す。 ・前後、裏表にはまだ無頓着であるので その都度言い聞かせ直させる。 ③・手をそえてはずすこと、途中やめしな いことをそばにいて徹底させる。 ④・いっしょにするところ、ひとりです るところを繰り返すことによって抵抗を 少なくする。	①・ズボンといっしょに パンツを脱ぎかけて もパンツだけまた上 げる。 ②・50%くらいは自分で 出して着れる。 ・「反対だ」と言う と直そうとする。 ③・言われなくても時々 できるようになった。 ④・調子がよい日は、服 を脱ぐと「たたもう よ」「たたんでだね」 と言うこともあり、 じょうずにはできな いが、いっしょにし なくても自分でする 気持ちがあらわれ始 めた。



・出来ばえは、
よくなくても
自分が意欲的
に取り組めた
時は大いにほ
め意欲をもた
せる。

(4) 今後の課題

- ・上着の持ち方が自分でわかるようにする。
- ・ズボンの前後の見分けができるようにする。
- ・ボタンだけでなくファスナー、スナップへ、また、広げてある服をたたむことから自分で服を広げてたたむことへ発展させる。
- ・大人がそばにいなくても友だちといっしょにできるような集団づくりをする。

4 考察とまとめ

K夫は、着替えと言えはとんで逃げる、だだをこねる等の消極的な態度であった。しかし、現在では、不十分な面もあるが自分からせさせと体を動かさしどうにか自分でできるようになってきた。衣服の着脱における自立をめざす過程で、着脱の上達はもちろんだが、自分でする心が育つことが今後の生活を充実するもとになる。K夫の生活では、表面的に乱暴なことが多く（強い甘えからであることが多い）、自分の欲求どおりに行動しようとした。そんなK夫が、自分の欲求以外のことにも耳を傾け、少しずつやる気を起こすようになった。このことが、さらに衣服の着脱を充実し、衣服の着脱だけでなく集団の中でさらに広がりをもって行動し（例えば、友だちがしてくれることを受け入れるなど）強く生きていく力となることを期待している。